

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、管理者と職員が共有し、実践できるように努めている。	月1回の職員会議で支援の内容について理念に沿っているかどうかを検討し、沿っていない場合はどうしていくかを話し合う中で理念の共有と実践につなげています。	日常の支援の内容が理念に沿っているかどうか常に議論し結果を共有していく方法は評価出来ます。その結果を記録し積み重ねていけば立派な理念実践マニュアルになる事に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会行事や地域活動に参加させていただき交流を深めている。又、見守り隊も継続して実施し、昨年施設で作成している新聞にも掲載し、地域の方より感謝しているとの声をいただいた。	借楽園だよりを発行、関係団体や利用者家族、馬橋小学校の全生徒に配布して地域での認知向上に努めています。馬橋小学校登下校を見守る「見守り隊」は地域で評価されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生の職業見学の受け入れや、地域の高齢者の集いを訪問し、認知症や施設の生活についての話をさせていただいた。又、毎年小学生に配布している新聞にも認知症についての欄を設け全児童に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設管理者とお互いの会議を行き来し、施設の質の向上に努めている。又、他施設の家族より自分達では言えないことを言ってくれてありがたいとの言葉をいただいている。	運営推進会議は年6回開催しています。会議に他のグループホームの職員を招きお互いに意見交換をして気付いたことを議事録にまとめて、今後の運営に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員やオレンジ協力員を受け入れ、意見交換をしている。又、松戸市グループホーム協議会においても市の職員が参加される時があり、そこで関わりを持つよう努めている。	介護相談員やオレンジ協力員を受け入れ市との連携を密にとって困ったことなんでも市職員に報告し相談に乗ってもらっています、市の研修には積極的に出席して職員の介護力に役立てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上出入り口の施錠は行っているが、職員が入居者の身体的・精神的な自由を守るよう心掛けている。	拘束の定義の内容が変化しているので職員に対する研修は常におこなっています。その議事録を残しています。外に出たがる利用者には職員付き添いで外出するなど拘束をしない方法を個別に検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止の意識を高め不適切な行動や言動には職員間で注意し合うようにしている。又、日々の身体チェックや精神状態にも気を配り僅かなシグナルも見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内に資料やパンフレット等を備えており、職員がいつでも目を通せるようになっている。又、管理者は権利擁護の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設介護老人保健施設の支援相談員と協力し、入居者・家族共にすべての面において十分納得していただくような説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を傾聴し、家族にも面会時に意見・要望を聞き対応できるように努めている。	利用者の意見は日常の生活の中でサインを見逃さず聞き支援しています。利用者家族からは面会時に意見や要望を聞き出すようにしています。得られた意見要望には迅速に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを開催し、管理者及び職員で意見交換をしている。又、日常の会話の中からも意見を拾い上げるように努めている。	月1回、2時間程度の職員会議を開催しています。その内容は記録に残します。この職員会議では利用者一人ひとりの支援内容について全員で意見交換し共有しています。その中で運営に関する意見も汲み上げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの業務状況・実績の把握、又は職員の意見を聞きやりがいをもちながら働くことができるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が各種研修会に参加できる体制を整え、内容の共有や事例検討の提案の機械を設けている。又、併設介護老人保健施設と勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学等を行っている。又、運営推進会議で意見交換をしたり、松戸市グループホーム協議会主催の交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望に耳を傾け、可能な限り入居者の希望に沿えるよう努めている。又、入居当初は本人の不安を和らげる為、家族の協力を得られるよう話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族との面談を十分に行い、家族の求めていることを理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及び家族の意向を踏まえた対応ができるよう、併設介護老人保健施設の支援相談員と共に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって穏やかに過ごせる居心地の良い場所になるよう、共に過ごし信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者に関しての情報交換を行い、入居者の意見を家族に伝え、相談し、共に支える環境を作るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所について本人や家族からヒアリングをし、可能な限り関係が続けられるよう支援している。	利用者や家族から、本人が入居前に大切にしてきた人や場所を聞き、入居前から受けていたマッサージ師が来所したり、家族の協力を得て美容室、温泉に行っています。また、コーラスやフラダンスも来てくれるなど、関係性を切らない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見定め、認知症が重度になっても孤立することのないように職員が間に入り関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談等がある場合には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの聞き取りや日常生活の中から本人の希望を読み取り検討・対応している。	利用者との日常の会話の中から本人の意向を聞き出す努力をしています。「～したい」「～へ行きたい」「～に会いたい」等の気持ちを汲み取り、実現できる方法を家族とも一緒に考え実現しています。	組織のマネジメントは仕組みの構築と文書化、その実践、記録、見直し更新というPDCAサイクルを常に回転させていくことにあります。利用者の意見や希望を汲み取り実践方法を記録して職員間で共有できる仕組み作りに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族に確認し、生活歴等を把握すると共に、日常会話から知り得た情報は職員全員で共有し、日々のケアに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調や状態等を把握し、各々の入居者に合わせた生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人・家族・主治医等と話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。	介護計画作成時、利用者と家族から意見を聞く他、担当者会議の意見、事前に担当医から往診時に聞いておいた意見等を総合的に反映させながら介護計画をまとめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を日々記入し、職員全員が常に情報を共有・把握できるようにしている。又、事例検討等を行い、実践・参考とし職員側の考える力を養っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況や要望等を踏まえ、サービスが画一的なものにならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや地域の公民館で行われている「ひまわりサロン」に参加。又、地域児童の「見守り隊」の活動に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックと在総診を結び、月3回の往診と休診日も含め24時間対応できる体制をとっている。他病院を受診した際は連絡表を持参して頂き情報共有に努めている。	月3回協力医が来所して診察を出来る体制が出来ています。かかりつけ医の診察を希望する利用者には家族が付き添って受診しています。その際にはバイタルや日常の様子を記入した「個人ファイル」を持参してもらい、事業所は出来る限りの支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在総診を結んでいるクリニックの看護師や訪問看護に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。又、緊急時には併設介護老人保健施設の看護師の協力も得られる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員及び併設介護老人保健施設の支援相談員が協力して病院のソーシャルワーカー等との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に対して看取りについての方針を説明し同意書を得ている。又、急変時や終末期の対応について定期的に家族の意向を確認し、主治医や看護師等と話し合いを行っている。	尊厳あるやすらかな最期を迎えるために居室の環境整備に努めています。看取り介護にあたっては多職種と協力し利用者への対応に努めています。変化していく身体状況や介護内容について医師から家族への説明を行い、家族の意向に沿った対応をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については施設内研修・マニュアル等で実践力を身につけるように努めている。又、緊急時には併設介護老人保健施設の協力も得られる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設介護老人保健施設と合同で避難訓練を行っている。又、町会の防災訓練に職員・入居者と参加している。	併設している介護老人保健施設との廊下には防火扉を設置し利用者が介護老人保健施設に避難できるようになっています。介護老人保健施設の職員が昼夜問わず利用者を避難誘導してくれる協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりを持った声掛けや対応を心掛けている。	自分が言われて不愉快になる事は言わない、洗濯物をたたむ時も下着は目の前に置かない等、日常生活の中で人格を尊重し、プライバシーを保護し、羞恥心に気を使うことを認識して日々支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人のレベルに合わせた対応をし、自己決定できるような声掛け・働きかけを行っている。又、訴えることのできない方へは、表情やしぐさから汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望を傾聴し、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみの支援や、外出時の化粧等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好と栄養バランスを考慮しつつ、入居者と共に献立を考え、準備し、食事を楽しんでいる。又、重度化している入居者にも香りや音等により雰囲気を楽しんでいたできるように努めている。	重度化した利用者には刻み、トロミ食にしていますが、普通食を見せながらメニューを説明して食べる喜びを感じられる介護をしています。献立、買い物も利用者と共に話し合い、一緒に作り、配膳の手伝いもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量をチェックし、不足又は過剰の無いように調整している。又、不足に対しては個々に合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。又、歯科医師から口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを精神面を考慮しながら対応している。	時間でトイレ誘導するのではなく、排泄チェックシートを用いて、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導の声掛けをしています。日常生活の延長としてトイレで排泄に努めています。また布パンツで過ごせる様に支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食事を提供している。又、毎日体操や散歩等の適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設のデイケアと入浴室が共同である為、入浴時間帯は決められているが、可能な限り希望に沿うようにしている。又、身体的理由で大浴場に入れない場合には、一人ずつ機械浴で入浴していただいている。	入浴は併設しているデイケアの浴室を使用しています。浴室は広々として、季節湯にして温泉気分を楽しんでいます。身体的理由で大浴場に入れない場合には、一人ずつ機械浴にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の入眠パターンを把握し、夜間安眠できるように日中は活動するよう促している。又、就寝時間は決まっているが、入眠を強制せず本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が使用している薬の目的・用法・用量を確認している。又、内服前後に複数回チェックを入れ誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた役割(裁縫・洗濯たたみ・洗い物等)をその都度提供し、生活意欲の向上に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩・買い物等を多く持つようになっている。又、季節に応じて外出の機会をつくっている。	利用者が日常的に近くの公園に行き、公園に来ている方と会話を楽しんだり、食材の買い物にスーパーに行き店内を見て回り楽しめる支援をしています。足立区の「生物園」にいった楽しんでる様子が写真で見取れます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では金銭は職員が管理しているが、外出時や地域のお祭り等の時には希望により個人に財布を渡し、職員と一緒に買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があった場合は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居心地の良い空間作りを心掛けており、室内装飾等で季節感を感じることができるよう工夫している。	フロアの一角に畳を置き、利用者がくつろぐ場になっています。利用者の個室の入り口には利用者のスナップ写真を多く飾り、写真を見て、スタッフと思い出話をしたり、家族が来所したとき一緒に話をして楽しんでいます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間以外にもソファ等を配置し、入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者及び家族と相談の上、過ごしやすい空間になるようにしている。又、使い慣れた物や好みのものを持ち込むよう勧めている。	事業所は利用者、家族と相談の上、自宅から持参した物を飾ったり置いたりして、思い思いの居室を自由に作ってもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのADL・生活リズム・習慣等を把握し、それに合わせた環境作りを心掛けている。		